2026 年 11 月 16 日（月）発行　No.509

ウィークリー・アウトルック

米ドル/円は 160 円の攻防か!?

【今週のポイント】

・米 FOMC 議事録は利上げ観測をさらに高めるか

・豪雇用統計で RBA の利上げ打ち止め観測が市場で高まるか

・原油価格が引き続き軟調に推移するか

米 FRB の利上げ観測が高まっています。10 月雇用統計は労働市場の堅調を示唆、10 月 CPI はインフレ圧力が根強いことを示しました。ハト派を含む複数の FOMC 参加者が利上げの必要性に言及。市場は 12 月 FOMC での利上げを確実視し、0.50%幅の利上げもわずかな確率ながら織り込んでいます。

13 日時点の OIS（翌日物金利スワップ）に基づけば、市場は次回 12 月を含めて 27 年 6 月まで 5 回の FOMC で 0.25%×3 回の利上げを完全に織り込んでいます。

10 月に低下基調だった米長期金利（10 年物国債利回り）は反転上昇し、13 日に 5.14%と 10 月中旬以来の水準に上昇しました。12 月 11 日に継続（つなぎ）予算が期限切れとなるため、新たな予算措置が必要です。中間選挙前の議員で行うレームダック・セッションで共和党と民主党はどのような審議を行うか要注目でしょう。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
11月16日		【メキシコ】祝日（革命記念日）			
	8:50	【日】GDP速報値 前期比年率(7-9月期)	実績：-0.1%		1.4%
	22:30	【カナダ】CPI 前年比(10月)	3.3%	3.2%	3.1%
11月17日	9:30	【豪】RBA議事録（11月2-3日会合分）			
11月18日		APEC首脳会議(中国・深圳、19日まで)			
	16:00	【英】CPI 前年比(10月)	3.6%	3.6%	3.5%
		【英】CPIコア 前年比(10月)	2.8%	2.8%	2.8%
	17:00	【南アフリカ】CPI 前年比(10月)	5.2%	5.2%	4.5%
	28:00	【米】FOMC議事録（10月27-28日開催分）			
11月19日		米・露・中の首脳会談(深圳)			
	9:30	【豪】失業率(10月)	4.7%	4.7%	4.7%
		【豪】雇用者数 前月比(10月)	2.30万人	2.50万人	-3.93万人
	22:00	【南アフリカ】SARB政策金利	7.25%	7.25%	7.25%
11月20日	8:30	【日】全国CPI 前年比(10月)	2.5%	2.5%	2.1%
		【日】全国CPI(生鮮食品を除く) 前年比(10月)	2.3%	2.3%	2.1%
		【日】全国CPI(生鮮・エネを除く) 前年比(10月)	2.4%	2.3%	2.4%

市場予想はBloomberg、11月16日9:00現在。発表日時は日本時間。

MONEY SQUARE
© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

米ドル/円は先週に一時 160 円台を示現。片山財務相や三村財務官から円安をけん制する発言が出ました。三村財務官は足もとの為替の水準についてコメントは差し控えるとしつつも、「ここ数日の動きは速過ぎる」「夏の記憶を忘れるにはまだ早いのではないか」と述べました。本邦当局は 7 月 30、31 日、8 月 3 日と 3 営業日連続で円買い介入を行い、規模は総額約 15 兆円でした。

＊＊＊＊＊＊＊

FRB は次回 12 月 8-9 日の FOMC で 0.50%の利上げを行うとの観測が市場で浮上しており、足もとで米ドル高圧力が加わっています。

今週の豪ドル/米ドルや NZ ドル/米ドル、米ドル/カナダドルは FOMC 議事録の内容などを受けて、12 月 FOMC に関する市場の見方がどのように変化するのかがポイントになりそうです。0.50%の利上げ観測が高まるようであれば、豪ドル/米ドルや NZ ドル/米ドルは下値を試し、米ドル/カナダドルは上値を試す展開になると考えられます。

19 日には SARB（南アフリカ中銀）の政策会合が開催されます。SARB は前回 9 月の会合で 0.25%の利上げを行うことを全会一致で決定。政策金利を 7.00%から 7.25%へと引き上げました。今回の会合については、政策金利は据え置かれると予想されています。そのとおりの結果になれば、6 人の政策メンバーの投票行動（利上げを主張したメンバーがいたのか）、SARB の声明や会合後のクガニャゴ総裁の会見で同中銀の先行きの金融政策に関してどのようなヒントが提供されるのかに注目です。市場で、次回 27 年 1 月の会合での利上げ観測が高まれば、南アフリカランドを下支えする要因になりそうです。

米ドル/円が 160 円近辺で推移するなか、本邦当局の対応にも注目です。本邦当局による円買い介入、あるいはその準備ともされるレートチェックがあれば、米ドル/円が下落するとともに、豪ドル/円や NZ ドル/円なども引きずられると考えられます。

WTI 原油先物価格は 11 月 10 日に一時 1 バレル＝83.88 ドルへと下落し、8 月 28 日以来約 2 カ月半ぶりの安値をつけました。中東情勢をめぐる懸念が後退するようであれば、WTI 原油先物価格は一段と下落するとみられます。その場合、ノルウェークローネやカナダドル、メキシコペソにとってのマイナス材料になりそうです。＜八代＞

今週の注目通貨ペア①：＜米ドル/円　予想レンジ：156.000 円～161.000 円＞

米ドル/円は今週も 160 円を巡る攻防となりそうです。18 日には FOMC 議事録（10 月 27-28 日開催）が公表されます。当該 FOMC では政策金利の据え置きが決定されましたが、クック理事とハマック・クリーブランド連銀総裁が 0.25%の利上げを求めて反対票を投じました。最近、FOMC 関係者はハト派も含めて利上げの必要性について言及しており、上記 2 人以外にも利上げを支持する声があったかもしれません。議事録がタカ派的と判断されれば、長期金利が一段と上昇して米ドルの支援材料になるかもしれません。

MONEY SQUARE
© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

一方、米ドル/円が 160 円を超えて上昇するようであれば、本邦当局からけん制発言が出たり、状況によっては為替介入が実施されたりする可能性もあるでしょう。今年 7 月 30 日には米ドル/円が 164 円に接近する場面で介入が行われ、3 営業日連続で介入が実施された結果、米ドル/円は一時 157 円台前半まで下落しました。＜西田＞

今週の注目通貨ペア②：＜豪ドル/NZ ドル　予想レンジ：1.21000NZ ドル～1.24000NZ ドル＞

豪ドル/NZ ドルは 11 月 10 日に一時 1.22275NZ ドルへと下落し、9 月 4 日以来の安値をつけました。

足もとで豪ドル/NZ ドルが軟調に推移している主な要因として、RBA（豪中銀）と RBNZ（NZ 中銀）の先行きの金融政策に関する市場の見方の差が挙げられます。

RBA は前回 11 月 2-3 日の政策会合で 0.25%の利上げを実施し、政策金利を 4.85%としました。市場では、RBA による利上げは 11 月をもって打ち止めとの見方が有力。OIS（翌日物金利スワップ）に基づくと、市場は 27 年後半の利下げも織り込みつつあります。

一方、RBNZ は前回 10 月 28 日の政策会合で政策金利を 2.75%に据え置きました。ただ、同じく OIS に基づけば、市場では RBNZ は 27 年末までに 4 回合計 1.00%の利上げを行うとの見方が有力です。

今週（11/16- ）は、17 日に NZ の四半期ごとのインフレ期待が公表され、19 日に豪州の 10 月雇用統計が発表されます。前回のインフレ期待は 1 年先が 2.60%、2 年先が 2.34%でした。今回のインフレ期待調査が強い内容になり、雇用統計が市場予想と比べて弱い結果になれば、豪ドル/NZ ドルはさらに下値を試す展開になりそうです。＜八代＞

今週の注目通貨ペア③：＜米ドル/カナダドル　予想レンジ：1.41000 カナダドル～1.45000 カナダドル＞

米ドル/カナダドルは 11 月 13 日に一時 1.42695 カナダドルへと上昇し、10 月 14 日以来約 1 カ月ぶりの高値をつけました。

足もとの米ドル/カナダドル堅調の主な要因として、軟調な原油価格のほか、FRB の追加利上げ観測が強まっていることが挙げられます。市場では、FRB は次回 12 月 8-9 日の FOMC で 0.50%の利上げを行うとの観測も浮上しています。

FOMC 参加者の講演などでの発言や、18 日に公表される FOMC 議事録（10/27-28 開催分）を受けて、12 月 FOMC での利上げ観測が一段と高まるのかどうか注目です。その観測が強まれば、米ドル/カナダドルは引き続き堅調に推移しそうです。

市場では、BOC（カナダ中銀）は次回 12 月 9 日の政策会合で 0.25%の利上げを行うとの見方が優勢です。16 日発表のカナダの 10 月 CPI（消費者物価指数）の結果を受けて、その観測が高まるようであれば、米ドル/カナダドルの上値を抑える要因になるかもしれません。＜八代＞

MONEY SQUARE
© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

＜執筆者＞

執筆者プロフィール



西田　明弘（にしだ　あきひろ）

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。
米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代　和也（やしろ　かずや）

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。
豪ドル、ＮＺドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】広島県出身。
【趣味】野球・サッカー観戦。
【一言】より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。
※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。
※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。
※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号
【加入協会】日本証券業協会　　一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.